



アイフルが東証の 年間上昇率1位に

3位、ソフトバンク(9984)に買収されたイー・アクセス(9427、12月25日で上場廃止)が6位、不動産流動化のトーセイ(8923)が9位だった。

いたようだ。

●お宝と化した含み資産株

もっとも、アイフルにしても都競馬にしても、ほぼ一本調子で急騰したため、さらなる上値を目指す意味でも必要不可欠な調整が入ったと言える。アイフルは当欄で再三書いたように、引き続き4ケタ乗せが濃厚だと予想している。都競馬にしても、安倍政権と日銀が2%のインフレ目標で政策協定を本当に結ばば、2005年に付けた高値577円を目指すことになる。

実は年末の講演会でイチ押しとして取り上げた東京都競馬(9672)も、講演会の翌日の始値146円から2週間余りで253円まで暴騰しているのだが、こちらはあまりにも短期間に大きく上昇したため、信用規制が2度かかってしまい、やはり先週大きく下げている。とりわけ、増担保50%(うち現金20%)となってしまったのが響

くると予想する。もしかすると、バブル時の高値に迫る銘柄

●ベスト10のうち4銘柄を 当てる

自慢ついでに書くと、ベスト10の中に当欄やモーニングスター社主催の私の講演会で去年取り上げた銘柄がなんと4銘柄も入った。オリエントコーポレーション(8585)が

先週は急落してしまっただが、去年の東証1部年間上昇率ランキングで、アイフル(8515)が堂々の第1位になった。上昇率は441.7%。私が11月に当欄で取り上げてから、既に3倍以上に化けている。

ここで今年一発目の大胆な予想をしておこう。都競馬のような不動産の含み益と株価の乖離が著しい銘柄は、小泉政権時代の住宅バブル時の高値に迫るか、抜いてくる銘柄が複数出てくることを予想する。もしかすると、バブル時の高値に迫る銘柄

含み資産株は大相場へ

が出るかもしれない。というのも、アイフルなどの消費者金融やクレジットカード業界と同様、有力な含み資産株は次から次へとM&A(企業の合併・買収)されて、限られた「お宝」になりつつあるからだ。既に、そうした含み資産株は、M&Aによってリーマン・ショック後に小泉政権時代の高値を抜いた銘柄が幾つか出ている。

●時価5倍弱のTOB

例えば、新立川航空機と立飛企業。この2社は、村上ファンドのTOBが設立した投資ファンドに株を買い集められ、結果的にMBO(経営陣による自社株買収)によって上場廃止になった。買い付け価格は新立川が5200円(直前の株価は2550円)、立飛企業は6300円(同4020円)。

小泉政権時の高値に迫る銘柄が続出か

新立川の03年から06年までの住宅バブル時の高値は3130円、立飛企業は同6400円である。しかも、新立川の上場来高値はバブル時代の6000円だが、この20年余りの間に行った小幅な株式分割や配当を考慮すれば、この買い付け価格は上場来高値とほぼ同程度だ(だからこそ経営陣は投資ファンドの株を肩代わりしたのだろう)。

08年7月に東宝(9602)がTOB(株式公開買い付け)で完全子会社化したコマ・スタジアムは、直前の株価1545円に対して、買い付け価格は実に7400円と4.8倍だった。確か、1カ月近く毎日ストップ高していたと記憶する。同社も03年の高値が7300円だった。

先週はやはり東宝が子会社でバブル時に「含み資産の塊」といわれた東宝不動産(8833)を直前の株価に対して33%のプレミアムを乗せた735円でTOBすると発表。これで含み資産株人気に拍車が掛かった。ちなみに、東宝に比べてコマ・スタジアムの方がはるかに高いプレミアムになったのは、東宝にとって同社が持株比率10%程度の系列会社にすぎなかったことが大きいとみている。(つづく)